

【 老年看護学 】

★この科目は実務経験のある教員による授業科目です

独立行政法人国立病院機構高崎総合医療センター附属高崎看護学校

授業科目	高齢者看護学概論		対象学年・時期	1 年次・後期
			単位数	1
			時間数	15
講師名	看護師 ★		講義時間	14
			テスト時間	1(45 分)
学習目標	1.高齢者の身体的・社会的・精神的特徴とその生活について理解できる 2.社会構造の変化と保健医療福祉制度の動向を理解できる 3.老年期における健康課題と看護の役割について理解できる			
回数	主題	学習内容及び方法	講義形態	
1 回	1. ライフサイクルからの高齢者の理解	1) 老年期の定義 2) 加齢と老化 3) 老年期の発達課題(エリクソン、ペック、バトラー)	* アクティブ ラーニング 講義	
2 回	2. 生活史からの高齢者の理解 3. 高齢者の生活の変化	1) 生活史からみた高齢者 2) 高齢者の多様性 1) 生活の場、住宅環境 2) 生活リズムと生活習慣 3) 役割と生活活動、余暇活動 4) 就労・雇用 5) 収入・生計	講義	
3 回	4. 加齢に伴う変化	1) 加齢に伴う変化の特徴 2) 身体的変化 3) 精神的変化 4) 社会的変化 5) セルフケア	講義	
	5. 老年期の健康課題(身体的・精神的・社会的)	1) 老年期の健康の捉え方 (1) 生きがいと生活の満足感 (2) ストレングス (3) サクセスフルエイジング	講義	
4 回	6. 健康増進・疾病予防に伴う施策や取り組み	1) 健康状態が急速に変化する対象の身体的・心理的・社会的特徴 (1) フレイル	講義	
	7. 生活(療養)の場に応じた看護(病院・施設・在宅等)	1) 高齢者とヘルスプロモーション (1) 地域包括ケアシステム 2) 保健医療福祉施設および居住施設における看護 (1) 介護保険施設 (2) 地域密着型サービス (3) 住まい	講義	
	8. 高齢者と家族	1) 家族構成の変化 2) 家族形態の変化 3) 老年者と家族の人間関係 4) 介護と家族	講義	

5回	9. 高齢者の保健・医療・福祉の動向	1)人口学指標 2)健康指標 3)老人保健法 4)老人福祉法 5)老人医療制度 長寿医療制度 6)年金制度 7)介護保険 8)医療費の助成制度の活用 9)保健医療福祉施設	講義
6回	10. 高齢者とQOL  11. 老年看護における倫理的課題	1)老年者の尊厳と権利擁護 (1)高齢者に対するスティグマ (2)エイジズム (3)権利擁護(アドボカシー) (4)ノーマライゼーション (5)高齢者を支える社会資源 ①フォーマルサービス・インフォーマルサポート 1)高齢者虐待 (1)養護者・従事者による虐待 (2)発生要因と予防に向けた支援 2)身体拘束・抑制 3)高齢者の権利を守る制度 (1)日常生活自立支援制度 (2)地域福祉権利擁護事業・成年後見制度	講義
7回	12. 老年看護の役割	1)経過に応じた看護 (1)高齢者への介護予防・認知症予防 2)治療に応じた看護 (1)高齢者への薬物療法・服薬管理 (2)高齢者へのがん治療と看護 (3)家族への援助	講義
8回	終講試験		
評価方法	筆記試験		
テキスト	系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護学 (医学書院)		
参考文献	新体系看護学全書 老年看護学① 老年看護学概論/老年保健 (メヂカルフレンド社) 看護学テキスト NiCE 老年看護学概論「老いを生きる」を支えることは (南江堂)		

【高齢者看護学概論】

自己学習時間	30時間	事前・事後学習	DVD等を活用し高齢者を理解する
--------	------	---------	------------------

授業科目	高齢者の健康な生活の保持・増進に向けた看護		対象学年・時期	2年次・前期
			単位数	1
			時間数	30
講師名	看護師		講義時間	29
			テスト時間	1(45分)
学習目標	1. 高齢者の加齢に伴う健康状態や日常生活能力をアセスメントする方法が理解できる 2. 高齢者とその家族の健康・自立を支えるための基礎的援助方法を理解できる 3. 加齢に伴う症状に対する援助方法について理解できる 4. 高齢者とその家族の自立を支える日常生活の援助が理解できる			
回数	主題	学習内容及び方法	講義形態	
1回	1. 高齢者への基礎的援助	1) 高齢者の観察	講義 演習 グループワーク	
2回		2) コミュニケーション(感覚機能低下・認知力低下) (1) 高齢者とのコミュニケーションと関わり方 (2) 状況に応じたコミュニケーション方法 3) 加齢による身体変化への援助 4) 家族の健康・自立を支えるための基礎的援助方法		
3回	2. 自立を支える日常生活の援助 (日常生活能力のアセスメントと援助の方法)	1) 基本動作と環境 (1) 転倒・廃用症候群	講義	
4回 5回		2) 食生活と栄養 (1) 嚥下訓練 (2) 口腔ケア・義歯の取り扱い	講義 演習 (実習室)	
6回 7回		3) 活動・運動とレクリエーション (1) 歩行介助 (2) 移動	講義 演習 (実習室)	
8回		4) 休息と睡眠 (1) 生活リズム (2) 昼間のケア・夜間のケア(睡眠薬の使用法)	講義	
9回 10回		5) 排泄 (1) 高齢者の排泄ケア (2) オムツ交換 ポータブルトイレへの援助	講義 演習 (実習室)	
11回		6) 清潔・身だしなみ (1) 入浴介助・フットケア・耳のケア 7) 性生活 (1) 高齢者のセクシュアリティ 8) 住環境・対人関係 (1) 社会参加活動	講義	
12回		9) 家族への援助 (1) 家族のアセスメント (2) 介護家族への援助	講義 演習 グループワーク	

13回	3. 高齢者に多い 事故への対応	(1)転倒・転落 (2)熱傷 (3)窒息 (4)感染	講義
14回	4. 加齢に伴う症状 と看護	1)痛み 2)掻痒感 3)不眠 4)痺れ 5)冷え 6)振戦7)便秘・尿失禁 8)脱水 9)うつ10)難聴 11)視力障害	講義
			講義 グループワーク
15回	まとめ/終講試験		
評価方法	筆記試験		
テキスト	系統看護講座 専門Ⅱ 老年看護学 (医学書院) 系統看護講座 専門Ⅱ 老年看護 病態・疾病論 (医学書院)		
参考文献			

【高齢者の健康な生活の保持・増進に向けた看護】

自己学習時間	15時間	事前・事後学習	テキスト等で学習し、高齢者看護の理解を深める
--------	------	---------	------------------------

授業科目	健康障害のある高齢者の看護		対象学年・時期	2年次・前期
			単位数	1
			時間数	30
講師名	看護師		講義時間	29
			テスト時間	1(45分)
学習目標	1. 高齢者の健康障害の特徴が理解できる 2. 治療を受ける高齢者とその家族への看護が理解できる 3. 高齢者に特徴的な疾患について、家族を含めた看護が理解できる			
回数	主題	学習内容及び方法		講義形態
1回 2回	1. 健康障害のある高齢者の特徴	1) 高齢者に起こりやすい疾患の特徴 (1)せん妄 (2)うつ病 (3)認知症		*アクティブラーニング 講義
3回 4回		2) 高齢者に多く見られる症状と現れ方 (1)低栄養(2)脱水症(3)感染症 (4)めまい(5)浮腫(6)低体温(7)熱中症		講義
5回		3) 高齢者の健康のアセスメントと観察の視点 (1)高齢者ヘルスアセスメント (2)身体に加齢変化とアセスメント		講義 演習
6回 7回	2. 寝たきりの防止と自立支援	1) 持てる力(患者の強み・患者にできること)に目を向けた支援 (1)老年期の健康の捉え方(ICFモデル) 2)生活と自己管理の調整 (1)フレイル (2)介護予防		講義 演習
8回	3. 身体可動性障害の高齢者の看護	1)老年症候群 (1)起立・歩行障害 (2)運動器症候群		講義
9回	4. 受療形態に応じた看護	1)外来受診時の看護 2)検査時の看護 3)入院時の看護 4)退院時の看護		講義
10回	5. 治療を受ける高齢者の看護	1)経過に応じた看護 2)手術療法時の看護 3)リハビリテーション時の看護 4)薬物療法時の看護 5)高齢者を介護する家族への看護 (1)家族の役割 (2)家族の健康と介護力		講義
11回 12回 13回	6. 高齢者特有の疾患と看護	1)特徴的な疾患と家族を含めた看護 (1)骨粗鬆症 (2)大腿骨頸部骨折 (3)白内障 (4)前立腺肥大症 (5)脳梗塞・脳出血 (6)パーキンソン病 (7)誤嚥性肺炎 (8)疥癬		講義

14回	7. 終末期の家族のニーズの充足への関り	1) 高齢者におけるエンドオブライフケア (1) 予期的悲嘆 (2) 意思決定への支援 ①アドバンスケアプランニング②リビングウィル (3) 家族への支援 2) 終末期に求められる援助 (1) 看取の場(緩和ケア病棟、在宅) 3) 家族への援助 (1) グリーフケア (2) デスカンファレンス	講義 演習
15回	まとめ/終講試験		
評価方法	筆記試験		
テキスト	系統看護講座 専門Ⅱ 老年看護学 (医学書院) 系統看護講座 専門Ⅱ 老年看護 病態・疾病論 (医学書院)		
参考文献			

**【健康障害のある高齢者の看護】**

自己学習時間	15時間	事前・事後学習	テキスト等で学習し、高齢者看護の理解を深める
--------	------	---------	------------------------

授業科目	高齢者看護学演習		対象学年・時期	2年次・前期
			単位数	1
			時間数	30
講師名	看護師		講義時間	30
			テスト時間	課題評価
学習目標	1. 高齢者を対象とした看護過程の展開ができる 2. 高齢者およびその家族に必要な看護技術を習得できる			
回数	主題	学習内容及び方法		講義形態
1回	1. 大腿骨頸部骨折で入院した高齢者に必要な治療・看護を理解する	1)事例を理解するために必要な知識 (1)情報で注目すべきポイントの確認 (2)情報を分析・解釈するために必要な知識		*アクティブラーニング 講義 DVD 視聴
2回	2. 事例における看護過程の展開	1)事例の理解 (1)病態関連図 (2)情報収集		講義 演習
3～5回		1)事例の理解 (1)情報の整理・分析		講義 演習
6～7回		1)事例に応じた看護援助の方法を考える 2)看護問題の明確化 3)看護問題・協働問題の抽出		講義 演習
8～9回		1)事例に応じた看護援助の方法を考える (1)看護計画立案		講義 演習
10回		1)事例に応じた看護援助の方法を考える (1)立案した看護計画 (2)期待される結果、看護介入の内容		講義 演習
11～12回		1)事例に応じた援助の実施・評価 ロールプレイングによる看護実践		講義 演習 (実習室)
13～15回	3. 高齢者及び家族へ必要な基本的な看護技術を理解する	脳梗塞により左片麻痺となった高齢者及びその家族への援助・個別指導 1)車椅子への移乗・移送 2)良肢位 3)義歯の取り扱い		講義 技術演習 ロールプレイング (実習室)
評価方法	個人・グループワーク・演習課題、グループワーク・演習参加状況			
テキスト	1) 系統看護講座 専門Ⅱ 老年看護学 医学書院 2) 系統看護講座 専門Ⅱ 老年看護 病態・疾病論 医学書院 3) ヘンダーソン・ゴードンの考えに基づく看護実践アセスメント第3版			
参考文献	看護テキスト NiCE 老年看護学技術 最後までその人らしく生きることを支援する (南江堂) ナーシング・グラフィカ 老年看護学②高齢者看護の実践 (メディカ出版)			

## 【高齢者看護学演習】

自己学習時間	15 時間	事前・事後学習	高齢者を対象とした演習課題に取り組み、看護過程の展開ができる
--------	-------	---------	--------------------------------

授業科目	<p style="text-align: center;">老年看護学実習</p> <p style="text-align: center;">(老年期の対象理解と生活を支える看護)</p>	対象学年・時期	2年生・後期
		単位数	2
		時間数	90
実習目的	<p>老年期にある対象を理解し、加齢と健康障害に応じた看護に必要な基礎的知識・技術・態度を習得する</p>		
	<p>実習目標及び内容</p>		
	<p>1. 高齢者の特徴を理解し加齢や疾病に伴う生活機能障害への看護ができる</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 対象の加齢や疾病に伴う身体的特徴を記述(説明)する</li> <li>2) 対象の加齢や疾病に伴う心理・精神的特徴を記述(説明)する</li> <li>3) 対象の加齢や疾病に伴う社会的特徴を記述(説明)する</li> <li>4) 健康障害が対象に及ぼす影響を記述(説明)する</li> <li>5) 対象の抱える健康上の課題を記述(説明)する</li> <li>6) 対象の状態に応じた支援内容を記述(説明)する</li> <li>7) 対象の安全・安楽・自立性を踏まえた援助を記述(説明)する</li> <li>8) 予測された二次障害や危険を予防するための援助を実施する</li> <li>9) 対象の価値・信念の多様性を踏まえた援助を実施する</li> <li>10) 対象の状態に応じた生活機能の維持・向上を考慮した援助を実施する</li> </ol> <p>2. 高齢者の QOL 維持・向上に必要な多職種との連携を理解する</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 対象と家族を支える社会資源について記述(説明)する</li> <li>2) 多職種連携と看護師の役割について記述(説明)する</li> <li>3) 施設における看護師の役割について記述(説明)する</li> <li>4) 施設における多職種との連携・協働の必要性を記述(説明)する</li> </ol> <p>3. 対象の尊厳・権利に基づく、看護の専門職としての倫理的態度を習得する</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 高齢者の価値観や思いを傾聴する姿勢を示す</li> <li>2) 対象の反応を確認し、自尊心やペースに配慮する</li> <li>3) 医療・看護チームの一員として適切な人間関係を持つ</li> <li>4) 自己の役割を自覚し、責任をもった行動ができる</li> <li>5) よりよい看護を実践するために、主体的に学習する姿勢がある</li> <li>6) 対象との関わりを通して老年期の対象理解と生活を支える看護に対する自己の考えを記述(説明)する</li> </ol>		
評価方法	<p>評価表による評価</p>		

授業科目	経過別看護 (急性・回復期にある対象の看護)	対象学年・時期	3年生・前期
		単位数	2
		時間数	90
実習目的	生命の危機的状況にある対象の健康回復に向けた看護ができる		
	実習目標及び内容		
	<p>1) 生体機能の急激な変化が、対象の身体的・精神的・社会的側面に及ぼす影響を理解する</p> <p>(1) 生命の危機状態にある対象の身体的特徴を記述する</p> <p>(2) 手術侵襲により変化する対象の病態(器質的・機能的)を解剖生理の知識に基づき記述する</p> <p>(3) 生命の危機状態にある対象の心理的反応を記述する</p> <p>(4) 急激な健康状態の変化が対象の社会的側面に及ぼす影響を記述する</p> <p>2) 生命を維持する為の援助ができる</p> <p>(1) 急激な変化をたどる対象の病態を記述する</p> <p>(2) 診療の補助・診察時に必要な援助を記述する</p> <p>(3) 救命救急に必要な医療機器の管理を記述する</p> <p>(4) 集中治療中の対象を多面的にフィジカルイグザミネーションができる</p> <p>3) 合併症を予防し、回復促進の為の援助ができる</p> <p>(1) 合併症を予測し、発症の高い合併症予防の援助を実施する。</p> <p>(2) 早期回復に向けての援助を実施する</p> <p>(3) 侵襲的治療を受ける対象の安全・安楽・自立を支える援助を実施する</p> <p>4) 病状に伴う苦痛や症状緩和の援助ができる</p> <p>(1) 身体的苦痛に対する援助ができる</p> <p>(2) 精神的苦痛に対する援助ができる</p> <p>5) 回復段階に合わせた日常生活自立のための援助ができる</p> <p>(1) 予測される機能障害が日常生活へ及ぼす影響と看護を記述する</p> <p>(2) 社会復帰に向け、再発防止に向けた指導ができる</p> <p>(3) 退院後の生活を考慮した社会資源の活用を記述する</p> <p>6) 家族の状況に応じた看護を理解する</p> <p>(1) 対象の健康問題が家族に及ぼす影響を記述する</p> <p>(2) 家族の混乱や不安への関わりを記述する</p> <p>(3) 対象と家族の交流に対する援助を記述する</p>		
評価方法	評価表による評価		

授業科目	経過別看護 (慢性期にある対象の看護)	対象学年・時期	2年次・後期
		単位数	2
		時間数	90
実習目的	成人または老年の対象を受け持ち、疾病や障害を持ちながら生活する慢性期の対象の看護を習得する		
	実習目標及び内容		
	<p>慢性の経過をたどる対象の病との共存を支えるための看護ができる</p> <p>1) 慢性の経過をたどる健康障害が、対象の身体的・精神的・社会的側面に及ぼす影響を理解する</p> <p>(1) 対象の病態(器質的・機能的変化)を解剖生理の知識に基づき記述(説明)する</p> <p>(2) 疾患・症状に対して行われる検査・処置の目的・方法を記述(説明)する</p> <p>(3) 疾患・症状に対して行われる治療の目的・方法を記述(説明)する</p> <p>(4) 疾患・治療・入院が対象の精神面に及ぼす影響を記述(説明)する</p> <p>(5) 疾患・治療・入院が対象の社会面に及ぼす影響を記述(説明)する</p> <p>2) 健康を維持していく上で必要なセルフケア行動獲得の支援ができる</p> <p>(1) 対象の健康状態についての経過を記述(説明)する</p> <p>(2) 対象が疾患・治療・入院をどのように受け止め対処しているのか記述(説明)する</p> <p>(3) 健康障害が日常生活に及ぼす影響について記述(説明)する</p> <p>(4) セルフケア行動獲得に必要な情報を記述する</p> <p>(5) 対象のセルフケア能力に合わせた援助を実施する</p> <p>3) 生活の場に合った療養行動を取り、合併症や急性増悪を予防するための支援ができる</p> <p>(1) 予測される合併症とその予防について記述(説明)する</p> <p>(2) 症状の変化を早期発見し、合併症予防の援助を実施する</p> <p>(3) セルフマネジメント(自己管理)に向けた教育的な関わりを実施する</p> <p>4) 地域で自立した生活を送る為に必要な医療施設と地域の保健医療福祉サービスの連携を理解する</p> <p>(1) 対象と家族に必要な社会資源を退院後の生活を見据えて記述(説明)する</p> <p>(2) チーム医療と協働する専門職の役割、連携の必要性について記述(説明)する</p> <p>5) 家族状況に応じた援助を理解する</p> <p>(1) 慢性の経過をたどる対象の健康問題が家族に及ぼす影響を記述する</p> <p>(2) 対象と家族に必要な社会資源の活用について指導内容を記述(説明)する</p> <p>6) 看護学生としての責任を果たし、対象を尊重した態度で接する</p> <p>(1) 自分の役割を自覚し、責任ある行動がとれる</p> <p>(2) 実習目標の到達に向け、主体的に学習に取り組む</p> <p>(3) チームの一員として適切な人間関係を持つ</p>		
評価方法	評価表による評価		

授業科目	経過別看護 (終末期にある対象の看護)	対象学年・時期	3年生・後期
		単位数	2
		時間数	90
実習目的	回復の見込みがなく、積極的な治療を行わずにQOLの向上を目指している対象の看護を習得する		
	実習目標及び内容		
	<p>1) 近い将来死を免れない状況にある対象の身体的・精神的・社会的・霊的側面を理解することができる。</p> <p>(1) 疾患・入院・治療に伴う対象の身体的変化が日常生活に及ぼす影響を記述(説明)できる。</p> <p>(2) 疾患に伴う検査・処置の目的・方法や、治療方法について記述(説明)できる。</p> <p>(3) 疾患・入院・治療による対象の精神面の変化が日常生活に及ぼす影響を記述(説明)できる。</p> <p>(4) 疾患・入院・治療による対象の社会的役割の変化が日常生活に及ぼす影響を記述(説明)できる。</p> <p>(5) 病態が霊的側面に及ぼす影響を記述(説明)できる。</p> <p>2) 終末期にある対象の希望と安全性を配慮した日常生活の援助が理解できる。</p> <p>(1) 対象が疾患・入院・治療をどのように受け止め対処しているのか記述(説明)できる。</p> <p>(2) 対象の状態を考慮し、安全性・安楽性を配慮した援助ができる。</p> <p>(3) 対象のその人らしさを考えたQOLの維持に向けた支援が実施できる。</p> <p>3) 終末期にある対象の価値観を尊重し、苦痛を緩和する為の援助ができる。</p> <p>(1) 対象の価値観、信念、想いを傾聴する姿勢を示すことができる。</p> <p>(2) 終末期における患者の症状および苦痛を和らげる援助の方法を記述(説明)、または一部実施できる。</p> <p>(3) 疼痛コントロールのための薬物療法を安全かつ効果的に行う方法を記述(説明)できる。</p> <p>(4) 終末期における患者がその人らしく過ごせる緩和ケアについて考察できる。</p> <p>(5) チーム医療と協働する専門職の役割、連携の必要性について記述(説明)できる。</p> <p>4) 家族の状況に応じた援助が理解できる。</p> <p>(1) 終末期における患者の家族のニード充足への関わりについて考察できる。</p> <p>(2) 対象自身または家族が意思決定を行うための支援方法を記述(説明)できる。</p> <p>(3) デスカンファレンスの必要性について記述(説明)できる。</p> <p>5) 終末期にある対象の尊厳・権利の尊重に基づく、看護の専門職者としての倫理的態度を習得する</p> <p>(1) 終末期看護について自己の考えを表現できる。</p> <p>(2) 看護の専門職者として信頼を得るための、責任ある行動がとれる。</p> <p>(3) よりよい看護を実践するために、主体的な学習ができる。</p> <p>(4) 医療チームの一員として適切な人間関係を持つことができる。</p>		
評価方法	評価表による評価		